

幻の名著、ついに復刊！
渡部昇一がドイツ留学で実感した西洋社会の本質

『わが体験的キリスト教論』

(著者)渡部昇一

(価格)1,430円(税込)〈発売日〉2021年10月22日〈出版元〉ビジネス社

株式会社ビジネス社(東京都新宿区 代表取締役:唐津隆)は、新刊書籍『わが体験的キリスト教論』を2021年10月22日に発売いたしました。ぜひ、貴メディアにてご紹介いただけますと幸いです。

■カトリックとプロテスタントはなぜ相容れないのか？

ドイツの「キリスト教社会」の奥深くに入り込んで体験した出来事の数々と、そこから導き出した考察を綴った、渡部昇一の名著「ドイツ留学記 下」(講談社 1980年刊)を復刊。「宗教改革」を洞察し、宗派対立の歴史を掘り起こす一冊です。

カトリックとプロテスタントは、なぜ相容れないのか？「宗教改革」を洞察し、宗派対立の歴史を掘り起す幻の名著。著者の愛読者が「最も読み直したい」と望んだ一冊です。

ドイツ留学で著者は、かの国の宗派対立の強さを実感します。カトリックとプロテスタント(ドイツではエヴァンゲリッシュ)は、なぜ相容れないのか？「宗教改革」とはいったい何だったのか？神と人間との関係性はここまで違うのか？カトリックはいかに誤解されてきたのか？宗派対立の血生臭い歴史を掘り起し、日本人がほとんど認識せず、西洋人がタブー視する社会の「お約束」を明らかにしていきます。

わが体験的 キリスト教論

ドイツ留学で実感した西洋社会の本質

渡部昇一

Shoichi Watanabe



「宗教改革」を洞察し、
宗派対立の歴史を掘り起す
カトリックと
プロテスタントは、
なぜ相容れないのか？

幻の名著、
復刊！

ビジネス社

「本書は、ドイツの『キリスト教社会』の奥深くに入り込んで体験した興味深い出来事の数々と、そこから導き出された考察が書かれた社会論であり、歴史論であり、宗教論である。『西洋全体を理解するうえでキリスト教を正しく理解することがいかに大切か』を悟った経緯が克明に描かれている」

「まえがきに代えて」渡部玄一(渡部昇一長男・チリスト)より抜粋

◆目次

第1章 犯罪国家からキリスト教国へ

第2章 二つの教会

第3章 ドイツ歳時記から

著者：渡部 昇一

1930年10月15日、山形県生まれ。上智大学大学院修士課程修了。ドイツ・ミュンスター大学、イギリス・オックスフォード大学留学。Dr.phil.(1958)、Dr.Phil.h.c(1994)。上智大学教授を経て、上智大学名誉教授。その間、フルブライト教授としてアメリカの4州6大学で講義。専門の英語学のみならず幅広い評論活動を展開する。1976年第24回エッセイストクラブ賞受賞。1985年第1回正論大賞受賞。英語学・言語学に関する専門書のほかに、『歴史への遺言』『昭和史〈上・下〉』(以上、ビジネス社)『知的生活の方法』(講談社現代新書)、『古事記と日本人』(祥伝社)、『知的余生の方法』(新潮新書)、『決定版 日本人論』(扶桑社)などがある。2017年4月17日逝去。享年86

【お問い合わせ先】 株式会社ビジネス社 広報担当:松矢 〒162-0805 東京都新宿区矢来町114番地 神楽坂高橋ビル5F

E-mail : matsuyapress@gmail.com 携帯: 09072611982 TEL03-5227-1602 / FAX 03-52271603

著者への取材、企画ご協力、読者プレゼントご対応も承ります。